

教科等研究会（中学校特別活動部会） 令和元年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

互いのよさを出し合うことで、自主的・実践的に課題解決する特別活動
～社会参画、人間関係形成、自己実現のねらいを明確にした集団活動の創造を通して～

2 研究経過

第 1 回			第 2 回			第 3 回			第 4 回		
期日	人数	場所	期日	場所	生徒会	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6 月 18 日	9 名	御船 中学校	7 月 5 日	津森 小学校	交流会 打合せ	10 月 31 日	益城中央 小学校	吉川 美千瑠 教諭	11 月 22 日	嘉島 中学校	福島 亜矢 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 主題設定の理由

これからの子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、豊かな感性を持って自分と周囲の人、各々の生き方を認め合いながら、よりよい社会、よりよい人生をどのように切り開いていくかを自ら考え、実践できる力を身に付けていくことが重要となる。

特別活動では、学級活動、児童会、生徒会活動、クラブ活動、学校行事等のよりよい集団活動を通して、学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育てていく。よりよい集団活動は、自分と異なる文化、習慣、生き方を認め合う土壌や協働性、集団への所属感、連帯感を育むことにつながる。それが学級文化、学校文化を醸成し、特色ある教育活動の展開を可能性へとつなげる。

特別活動の目標に掲げられている「互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」よりよい集団活動の創造過程は、特別活動で育成する重要な資質・能力である「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」を実践的に身に付けていくための重要な機会となる。

よりよい集団活動をめざして、話し合い活動で合意形成された目標や一人一人に役割分担のある協働活動は、互いのよさを集団の中で具体的に生かし、個性と集団を伸ばしていく集団活動に他ならない。よりよい集団活動を創造していく活動を通して、「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」が育成されているかという視点を明確にもって実践していくことが不可欠である。

② サブテーマ

ア 人間関係形成

人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成していくために、よりよい集団活動の中で、個人と個人、あるいは個人と集団という関係性を築いていくことが必要である。年齢や性別といった属性考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることが大切である。

イ 社会参画

社会参画の意識は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決していくために、自発的、自治的な活動を行い、個人が集団へ関与する中で育まれる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。

ウ 自己実現

現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする集団活動を通して、自己のよさや可能性を集団の中で生かし、試していくことで、自己理解が進み、自己のよさを生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力などが育まれる。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 新学習指導要領の内容を踏まえて、今後の指導について小中合同で考えることができた。
- 授業研究会の事前研を実施したことで、事前研に参加した部会員同士で授業者の想いを共有した上で授業研究会に臨むことができ、授業参観と班別討議の中で、研究の視点を絞って意見交流を行うことができた。
- 同じテーマの授業を3年間引き継いだことで、前年度の反省を踏まえた授業づくりができ、本年度は、授業の中で考えを拡散させる度合や視点の絞らせ方を研究することができ、部会としての授業の型を創り上げることができた。
- 小中それぞれの授業を参観することができ、生徒の実態や各校種の実践等を知る機会となった。
- 新指導要領への移行を踏まえて、各校の実態を考慮しながら全体計画を見直していく必要がある。
- 生徒が、「互いのよさを出し合う」活動のさらなる充実に向け、特別活動における取組を見直していく必要がある。
- 生徒がより主体的に活動に取り組んでいけるように、生徒のレディネスを的確に把握しつつ、解決すべき課題を適切に設定できるよう研究していく必要がある。

4 実践事例

(1) 授業の概要

生徒の実態	<p>本学級の生徒は、男女の仲がよく、何事も一生懸命に取り組もうとする生徒が多い。また、授業など意欲的に取り組み、発表も活発である。しかし、自分の考えや思いを発表する場面となると、なかなか手が上がらず、発表する生徒が固定されてしまっている。</p> <p>現在、本学級の生徒は全員が高等学校への進学を希望している。1学期は学習に集中できなかった生徒も、2学期に入ってから学習に意欲を見せる生徒が増えてきている。「水族館のスタッフになる」「保育士になる」など自らの夢に向かい、進路選択を行っている生徒もいるが、不安や悩みを抱えている生徒も少なくない。また、悩みや不安に対しての解決方法も分からない生徒や解決策が分かっても実行に移せない生徒もいる。そこで、本時の授業を通して、級友も同じような悩みを抱えていることを共有することで、生徒同士が話し合いをし、自分に合った解決策を見つける過程を通して、学級全体が受験に向けて共に乗り越えていこうという思いや自己実現に向けて努力していくことができる前向きな姿勢が生徒に身に付くよう努めたい。</p>
本時における研究の視点	<p>研究テーマとの関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他の生徒と協力しながら、自己や学級の課題の改善に向けて主体的に取り組むことができる。【社会参画】 ○様々な考え方や意見の違いを理解し、協働しながら課題を自分で解決することができる。【人間関係形成】 ○進路選択における課題を発見し解決するために、一人ひとりが主体的な意思決定をしたり行動したりすることができる。【自己実現】 <p>指導のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自らの進路について考え、自己実現に向けて前向きに取り組むことができる。【集団生活や生活への関心・意欲・態度】 ○進路に向けての不安・悩みを解決する方法を考え、自分に合った解決策を考えることができる。【集団の一員としての思考・判断・実践】 ○進路についての不安・悩みが多数あることを知り、多様な対策があることを理解することができる。【集団活動や生活についての知識・理解】
授業者自評	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領の第5章学級活動の内容(3)一人一人のキャリア形成と自己実現の「主体的な進路の選択と将来設計」の内容で行った。 ・アンケートの結果、進路に対する悩みが多く、みんなで解決策を考えていくことを大切に授業を組み立てた。 ・前時では個人で解決案を考え、本時ではみんなでその意見を共有した。考えるというより、紹介し合ったり分類したりするので精一杯だった ・説明不足のところがあり、指示をもっと明確にすればよかった。 ・後半の意思決定までの手立てがもう少し必要だった。 ・悩んでいるのは皆同じだったと分かったこと。自分で決めたから自分でやり遂げるといった感想があったこと。

<p>協議の内容</p>	<p>【質疑】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの意見交換が活発だった。普段の取組を教えてほしい。 →帰りの会で毎日その日の反省を話し合ったりしている。 ・班編成の仕方に工夫があるのか。 →班長会議を行い、話し合いができるかなどの観点で意図的に編成している。 ・自己決定の場面で先生が目指していた姿（理想）は何か。出た意見の量は先生にとって適性だったか。 →そのくらいの量だと想定していた。 <p>【協議】</p> <p>〔良かった点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いたいと思える雰囲気だった。 ・受容のあるクラスの雰囲気だった。 ・話し合いの材料をたくさん集められていた。 ・今の悩みを共有できていた。 ・意見のグルーピングができていた班もあった。 ・受験期のピリピリした雰囲気を変えられる取組だった。 ・ひとりひとり自己決定ができていた。 <p>〔改善点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40個の意見から、自分にできる5個を選ぶというものであったが、簡単にできることと長い目で見ないとできないことを分けると良かった。 ・効果が高いもの、時間がかかるもので分類しても面白かったのでは。 ・意見交流というより、意見提示になってしまっていた。 ・最終的に「宣言」ではなく、ピフォーアフター形式にしてみてもどうでしょうか。変容が感じられるワークシートにしてみてもいかがでしょうか。 ・班の悩みは、個人の悩みと異なることもあるので、同じ悩みをもつ人たちがグループを作ってみてもどうでしょうか。 ・具体的な勉強法を出しあえたらどうでしょうか。 ・意見の分類をもっとしてもよかった。
<p>まとめ 津森小学校 大塚芳生 校長先生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに「お互いの良さを出し合う」とあるが、どんな形で出し合うのかを見ていた。友だちの「良さ」に気づくことは大切なことであるが、中学生は課題にはよく気づくが「良さ」に気づくのは難しい。このことが、自己肯定感が低いことに繋がっている。さらに、この自己肯定感の低さが、不登校に繋がっているのではないかと。日頃から友だちの「良さ」について、認め合う取組が必要である。 ・今日のクラスは、お互いに安心して意見を出し合える雰囲気があった。 ・先生との信頼関係ができていて、指示がよく通っていた。 ・話し合い方については、研究を積んでいる学校であっても、4人中2人しか話せなかったりするなど、全員が話す場を設定する必要がある。そのような中でも、嘉島中の生徒は、自分たちで自由に意見を出し合っていた。 ・牛深東中学校では、一日の見通しを共有するために、朝の会で「先見」という実践が行われている。話し合いによるファシリテーションの取組や、思考ツール（マンダラーチャートやKPT法など）の活用などの実践を参考にし、積極的に取り入れる姿勢を持ってほしい。 ・キャリアパスポートの取組についても、実践校の取組を参考にしていってほしい。 ・話すだけが対話ではない。教師の働きかけによって、発問を工夫し、生徒に考えさせる深い学びへの誘い方が大事である。 ・教師として、生徒一人ひとりの個性に寄り添う姿勢が大事である。 ・津森小での積極的生徒指導を紹介する。 縦割り班の取組、児童会活動の推進、児童の「気づき」を大切にする取組が、互いのよさを出し合い、自主的・実践的に課題解決することに繋がっている。

(2) 学習指導案

○本時のねらい

進路に関する悩みや不安を共有し、友だちの意見や取り組みを通して、自己に合った具体的な対策を見つけることができる。

○本時の展開

過程	学習内容・活動 ○予想される生徒の反応	指導上の留意点	備考、 準備物
導入 10分	1 進路に関する不安や悩みを全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 各班が本時で話し合う進路に関する不安や悩みを紹介する。また、全体で共有することで、本時の関心を高める。 	不安や悩みの紹介
展開 35分	<p>2 本時の課題を知る</p> <p>進路に関して、今抱えている悩みや不安を共有し、その解決策を見つけよう。</p> <p>3 不安や悩みの解決策を考える</p> <p>(1) 個人で考えた解決策を紹介する。(学習面)</p> <p>○時間を決めて学習を始める。</p> <p>○学習した内容を復習する。(学校や塾)(生活面)</p> <p>○ストレス発散のために軽い運動をする。</p> <p>○スマホ等の使用時間を決める。(その他)</p> <p>○親や先生に相談する。</p> <p>○周りを見て行動する。静かに過ごす。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習展開とねらいをつかませる。 自分だけではなく、誰もが同じような悩みをもつ受験生であることを確認する。 班内で個人の進路に関する悩みや不安を出しながら、同じものや似ている対策を分類する。 多様な意見が出るようにし、意見交換を行うことで、自己の不安や悩み解決にもつながるようにする。 級友の悩みや不安に対しては、アドバイスをするつもりで取り組むようにする。 級友との意見交換をしながら、具体的な対策を考えるようにする。 	付箋紙 画用紙
	<p>4 自分に合った解決策を見つける</p> <p>(1) 各班から出た解決策に自分ですぐにもできる取組に優先順位をつける。</p> <p>(2) 自分に合った解決策を決定し、理由を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各班から考えた解決策を発表させる。 班や他の班が考えた対策から、自分にできそうなものを選び、解決策を書かせる。 決定した解決策と理由を班又は全体で発表することで、決意を強めさせる。 	初付ボード ペン ワークシート
	<p>【思考・判断・実践】(観察、ワークシート)</p> <p>進路に関する悩みや不安を理解し、班で解決策を考えたり、自分に合った解決策を考え出したりすることができる。</p>		
まとめ 5分	5 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 悩みや不安は誰にでもあり、共有することで解決策を見つけることができる。また、それらと向き合い、前向きに自己実現に向けて努力していくことが大切ということを伝える。 	ワークシート